

# 一 学校運営

## 1 学校の目標

### (1) 長丘小学校における学校教育の使命

#### ① 学校のめざす子ども像

「ひとりだち（自立・自律）のできる子ども」

#### ② 長丘地域の願い

地域ぐるみの人育て「長丘教育」（生涯学習）の活性化  
地域の自然・歴史・文化、及びに、建設的で先賢の精神と人情豊かな地域の人々とふれあい、“人が育ちあう地域作り”に関わることを通し、ふるさと長丘のよさを感じ、郷土愛や誇りを持ち、自己のあり方や生き方を拓いていく。

#### ③ 「学校教育」が「長丘教育」に果たす役割

「自ら拓く力」をつける

児童に対して

- ・自ら、人、もの、こと、自然、社会、文化と関わりを深め、課題を追究する姿勢作り
- ・様々な生活・学習場面で課題解決を図っていく実践力（基礎基本の確実な定着）
- ・個々の違い・個性的なよさを尊重、かけがえのない自他の存在を自覚し、他を思いやる心や美しいものに感動する心を持ち、自分の可能性、よさを磨こうとする前向きな生き方
- ・長丘のよさを知り、長丘を愛する心、長丘をよりよくしようとする心情

教職員…子どもが、共に追究を深める学習の成立と子ども理解にたった学習研究

学校教育目標に迫る為の自己課題を追究し、自己研鑽し、学びあう職員集団

保護者…人育ての基礎、家庭の教育力向上…基本的な生活習慣（挨拶、食事、排泄、準備や場を整えること、コミュニケーション）

協働する家庭生活（役割と居場所作り・手伝い、家庭学習の支援、家庭読書等、地域行事や地域生活への参画支援）

P T A…私の子から、私達（我々）の子へ（ぱっと、楽しく、集まろう）

地域……地域ぐるみの人育て「長丘教育」の活用化（学校地域の連携）

### (2) 学校教育目標

- ① 本気で考える子ども
- ② 思いやりのある子ども
- ③ 粘り強くやり抜く子ども

#### ① 本気で考える子ども

一人ひとりが、自分が何を為すべきか、自分で考え実践できる子ども

- ・自分の頭で考え、自分の言葉で話し、自分の力で解決しようとする学習の充実
- ・生活の中から課題を見つけ、自分の手足五感を通じた体験学習の重視

#### ② 思いやりのある子ども

一人ひとりが、相手の立場に立って考えられる人間性豊かな子ども

- ・相手の立場に立って考え、人の心の痛みが分かる行為の実践
- ・自分も人も共にかけがえのない存在であることの意味を身につける言動の実践
- ・人の役に立つことや貢献することに喜びを感じ、支え合い力を尽くしていく生活の創造

#### ③ 粘り強くやり抜く子ども

たくましい心と体を培う子ども

- ・自ら目当てを持って挑み続け、苦しさや挫折を乗り越えるしなやかな心と体作り
- ・日々、自分にあった運動の継続的な実践

### (3) 教育課題

- ①相手のことを考えたり、安心して発言できる学習集団づくりをいっそう進めたい。
- ②自分で考え、語り、話し合い、問題解決しようとする力をさらに高めることが課題。
- ③地域・保護者とともに子供を育てる活動を進めたい。

(4) 平成24年度 学校重点目標

- 児童が安心して学べる学習集団づくり
- 聞く・話す・書く力を伸ばす授業
- 学校・家庭・地域が連携して進める「挨拶運動」の推進

(5) 児童の行動目標

- 第1重点 すすんで あいさつ
- 第2重点 よいところみつけ
- 第3重点 しっかり聞く 話す 書く

3 学校運営の重点

(1) 仲間と共に生きる喜びや感動が生まれ、その人らしさを大切に、安心して学べる学習集団を作り、一人ひとりの笑顔が輝く学校にする。

① 集団としての学級・学校が、居心地のよい、安心感のもてるものとなるためには、互いの違いやよさを尊重しあい、間違いやその人らしさを大切にする。

- ・どの人も自分磨き（よりよく生きていくための力をつける）の過程にいる。学校で、多くの仲間と共に教科等の学習をし、人との関係を学び、集団における生き方を学んでいく中で、悩んだり、分からなくなったり、失敗したりして、悲しさや、苦しさや辛さを味わうこともあるが、そういう心の痛みを分かりあえたり、支えあえたりできる人間関係を築いていく。
- ・率直な思いを出し合い、一人一人の価値観や生き方の違いを理解し、互いに知恵を出し合っ  
て越えていくことを通し、間違いに学び、一緒に学習できる、考え合い聞きあえる、新しい  
ことが発見できる、そんな期待感が持てる学び合いを工夫する。

② 福祉施設、保育園、祖父母、他学校、特別支援学級など異年齢、他集団との交流活動を通して相手の立場に立って考え行動する経験をつみ、共に生きる喜びや感動を体験的に学ぶ。

- ・全校たてわりグループ活動の充実を図り、他の子どものよさに気づく場（よいところみつけ）  
を確保する。

③ 多面的共感的子ども理解にたった指導により、心豊かに、一人ひとりが生き生きと活躍できる人間関係、学校風土、学級文化を築く。

- ・教職員は、日々、誠実さや温かさのある生活に努め、人間としての豊かさや深さをみがき、  
児童や保護者地域の方々からの信頼を得る生活態度でいたい。
- ・学校では、子どもにとっての最大の環境は、教職員であることを自覚して、指導にあたる。  
子どもの名前は、〇〇さんと呼び合い、板書し、挨拶をはじめ、「すぐに・まめに・さりげなく」  
励ましや思いやりの声かけによる温かな人間関係作りに努める。又、子どもの学ぶ意欲  
や集中して学習できる明るく落ち着いた教室環境作りに努める。
- ・読書や清掃等、率先垂範をし、心の通った学級・学校運営に心がける。
- ・学校便りや学級通信等で学校の教育方針や現状を家庭や地域に発信すると共に、参観日や懇  
談会の折りは無論のこと、機会を捉えて積極的に保護者や地域の人々の声を聞き、ともに歩  
もうとする開かれた学校作りをする。
- ・特別支援教育・生徒指導は、担任教師のみで行うのではなく、全職員が共通理解し、一貫性  
を持って指導にあたる。よい変化が僅かであっても見つけ、励ますようにし、家庭とも協力  
し合っ、指導にあたる。

(2) 問題解決的な学習や体験学習、交流学习などを通して、子どもが自分の考えを持ち、それを表現することで教材や友達、他の人々と関わり、主体的に追究して自らの考えを深めることができるよう日々の授業を工夫し、一時間一時間を納得のいく、分かる楽しい授業にする。

① 授業のユニバーサルデザイン化の観点から教室整備、学習ルールや視覚支援など学習環境作りに努める。

② 自然や文化や社会や人を深く見つめ、自分なりの課題を持ち、その学習対象の持つ価値・本質・真理を深くたずね、確かな学力や生きる力が育つ児童の学びの成立を図る。

- ・学習材（学習の価値）とつながり、学習過程のつながり（既習の学習と現在の課題のつながり、  
追究の見通しと追究方法、自分のひらめきや学びのよさと振り返り、次の学習への発展  
等々）の中で児童が何を問い、何を聞き、何を語ろうとしているかとらえ、授業を創造。

## 【ひとり学び】

自分なりに既習の学習内容や素地力を駆使して課題追究し、学習材の価値、その教科の持つ本質的なよさを発見したり、考えを整理したりして個人学習を深めていく。

- ・個の思考・追究の時間の確保と表現するノート（学習プリント等）指導
- ・自己の学びの振り返りと課題を焦点化する場の確保

## 【共学び】

小集団で互いのわからないこと、表現の違いやよさを見直す関わりによってひとり学びを深めたり、全体で互いの考えややり方の違いを出し合い、検討しあって真理を追究していく。

- ・学習形態の工夫、ノートなど表現を見合う場の工夫
- ・一時間の学習の内容（追究を深める考えや基礎基本の系統だった内容）を位置づけた分かり易くまとめられた板書の充実（視覚支援）
- ・「違いやよさ」「学習材の価値」に迫る追究過程の保障
- ・共同追究課題とそのための個々の追究を見極め、生かす見取り（座席表や評価計画の活用）
- ・「子どもの追究の道筋」を保障する複数の学習指導計画

### ③ 実態にあった指導方法や指導体制の工夫による個に応じた指導の充実

- ・一人ひとりの子どもに正対し、実態（学習や生活の場における 人・もの・こととの関わり、思いや願いや個性的な価値観、基礎基本や素地力・課題把握や追究力、学習を通して子どもが獲得している力、課題）を見つめ、個の理解を深める。
- ・子どもの追究意欲の喚起、学習内容の確実な定着を図るために、個別指導やグループ指導、繰り返し指導やティームティーチング、交換授業など、実態にあった指導方法や指導体制を工夫し、個に応じた指導を充実させる。

### ④ つける力を明確にして、追究の深まり、達成度等の評価を生かした積み上げのある指導の充実

- ・ねらいを明確にし、学びの振り返りによる授業のみとどけを確かなものにする場を確保。
- ・子ども一人一人の実態に応じてどんな力をつけるのかを明確にし、その授業でどこまで身につけたかをみとどける。その学習実態の評価を、次の授業に生かしていく。  
「計画→実践→評価→評価を生かした計画→」というサイクルを大事にしながら、一時間の学習だけにとどまらず、一人一人の学習の歩みを追い（記録の積み上げをする）、長い目で学習の定着を図っていく。
- ・子ども自身が追究の自己評価、課題の絞り込みをして、継続的に学習を深めていくことができるように指導。

### ⑤ 継続を大切にしたい学習習慣の育成

- ・繰り返し学習や発展学習など確実な定着を図るための学習や個に応じた学習がすすめられる家庭学習の方法を指導し学習習慣の育成をはかるとともに、自ら学び考える力を高めていく。
- ・想像力や考える力を育み、感性を豊かにする読書を大切に位置づける。そのために家庭読書の日（ノーテレビデー）の設定を進める。

### (3) 子どもの実態や生活基盤である家庭・地域の願い・課題を踏まえ、地域の教育資源・教育力を積極的に活用し、創意工夫を生かして特色ある教育課程を編成する。

#### ① 年間、学期、1～6学年の関連を見通した年間指導計画内容の吟味、検討。

- ・子どもの実態、家庭・地域の願い・課題を踏まえながら、系統的・発展的に指導内容の修正を行い、特に、国語の「聞く・話す」ことに関する指導と他教育活動との関連をはかる。
- ・時間割を固定的に考えず、年間指導計画と関連させながら、児童の実態や学習活動、各教科等の指導内容やその扱いに応じて、月、学期、季節ごとに工夫して運用していく。
- ・補充学習としてのチャレンジタイム、外国語学習に地域の教育力の活用を図る。

#### ② 地域の自然・文化・歴史・人材等の教育資源・教育力の積極的な活用・地域ぐるみの育て「長丘教育」との連携を図る。

- ・地域素材の掘り起こし、教科等の学習の講師に地域の人材を招聘、地域施設の利用、家庭や地域社会と連携し共に子どもを育てる場としての行事やふれあい挨拶運動などの推進を図る。
- ・福祉施設、保育園、祖父母、他小中学校との交流を通して安心して学べる学習集団形成をはかる。
- ・地域の自然、土に親しむ体験活動を通して、地域の生活や社会、自然のあり方を実感しながら学ぶ。